

入善町 議会だより

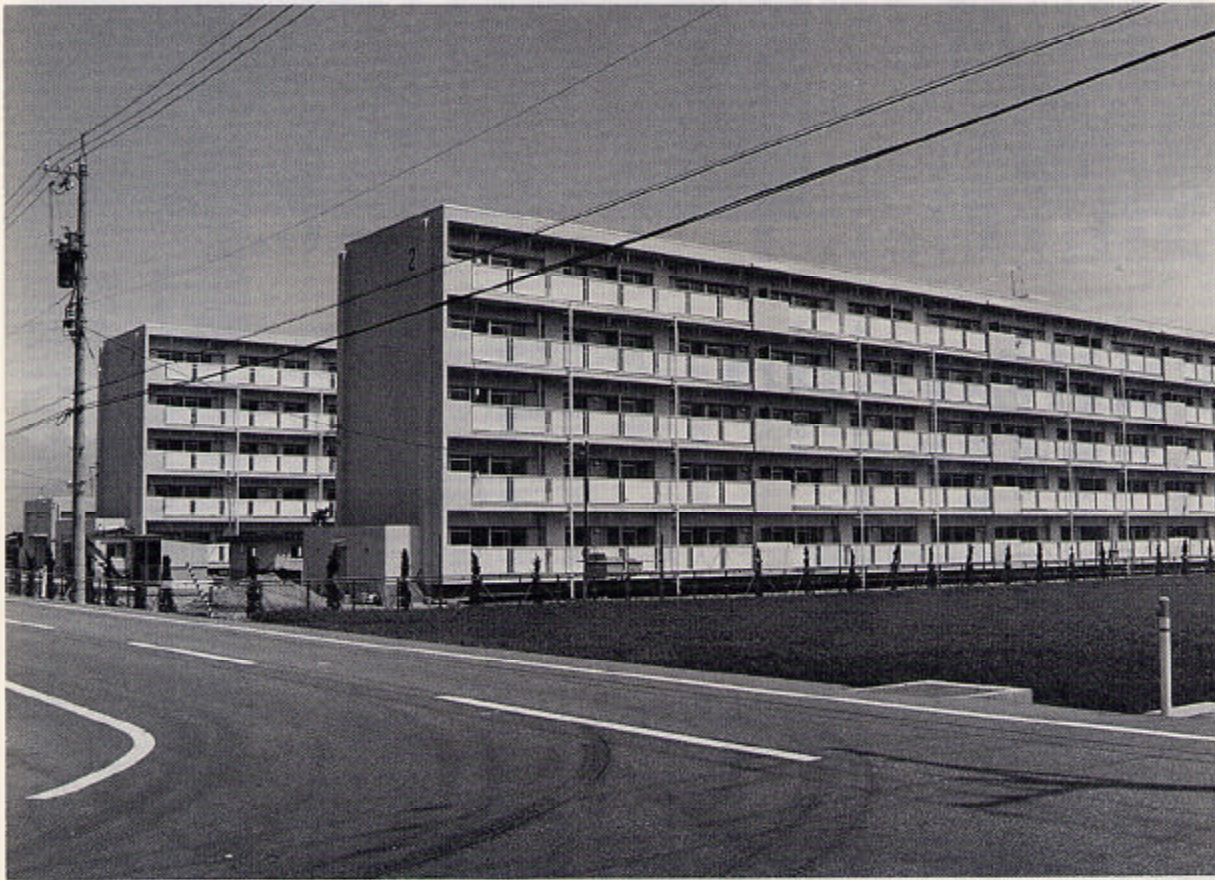
6月定例議会

№. 76号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会
富山県下新川郡入善町入膳3,255

☎ 0765 (72) 1100



人口増加を期待!!

「サン・コーポラス栲山」

(雇用促進住宅)

10月1日入居予定



水キラキラ 町いきいき入善

6月定例会

学校施設維持管理費に
6千880万円など追加

一般会計総額 83億79,595千円

六月十一日から二十一日までの会期で開催された六月定例会の初日に、正副議長の選挙を行い、議長に池原金興志氏、副議長に広瀬義孝氏を選任した後、新議長のもとで、議案六件、議員提出議案二件、諮問一件、請願一件、陳情六件、選挙二件について審議した。

※平成三年度一般会計補正予算
一億七千四百二十九万五千円を増額補正し、総額を八十三億七千九百五十九万五千円とした。

★主な使いみち

- ・学校施設維持管理費 六千八百八十万円
- ・水田農業確立対策事業費 二千九十五万九千円
- ・さわやか漁村海岸整備事業費 一千五百六十四万七千円
- ・舟見山自然公園整備事業費 一千万円
- ※平成三年度老人保健医療特別会計補正予算
医療給付金が確定したため、支払基金や、国・県・町からの交付金を精算返納するために七百九十五万三千円を増額した。
- ※財産の取得について
物品名 日野自動車工業株式会社製大型バス 二七〇馬力 五十七人乗
- ・台数 一台
- ・取得予定価格 一千八百七十七万三千百五十六円

・購入相手方

- 富山市高木一〇三四
- 富山日野自動車株式会社
- 代表取締役 小林 紀男

※国民健康保険税条例の一部改正

地方税法の改正に伴い、入善町国民健康保険税条例の一部を改正した。

・課税限度額

四十二万円を四十四万円に
減額(四割軽減世帯一人当りの基準額)

二十一万五千円を二十二万円に
※町道路線の認定

ショッピングセンター建設に関連し、栢山用水東線を町道と認定した。

校舎を改造

入善中学校

- ※工事請負契約について
契約の目的 入善中学校大規模改造建築
主体工事 入善町入善町入善町入善町
- ・工事の場所 入善町入善町入善町入善町
- ・契約の方法 入善町入善町入善町入善町

指名競争入札による契約

- ・契約金額 八千八十万三千五百円
- ・契約の相手 入善町入善町入善町入善町

Ⅱ 人事 Ⅱ

※人権擁護委員の推薦について

平成三年九月三十日に任期満了となる、屋木みよの氏、吉澤親敬氏を人権擁護委員として再任した。
※黒東合口用水組合議会議員
平成三年七月二十六日に任期満了となる、黒東合口用水組合議会議員の選挙の結果、次の者を当選人とした。

- 入善町東五十里二〇〇 五十里 隆章
- 入善町一、六六一一三 本田 幸光
- 上野一、〇三五 金沢 一美
- 上野一、五二一 目沢 庄藏
- 青木一、三九五 松沢 孝衛
- 高島二、三〇〇

皆さんの

請願・陳情の結果

- ・入善町防災行政無線施設の利用について請願 (採択)
- ・浄化槽清掃業者の新規許可反対についての陳情 (継続審査)
- ・町道二俣上川原線の拡幅に関する陳情 (採択)
- ・水稲種子保管施設増設について (採択)
- ・上原地区無線放送施設の導入に伴う陳情 (採択)
- ・運動公園野球場の整備拡張並びに夜間照明設備の修繕について陳情 (採択)
- ・異常気象に伴うあられ等による被害の助成について(採択)

広瀬 義孝

入善町福島新一一八

若島 信行

新屋一、五三三

白又 正司

墓ノ木五一五

宮腰 由則

下山一、一八五

袖野 成幸

栢山六〇六一一

池原 金興志

小杉八四六

西島 清

横山五七六一三

佐藤 学英

舟見一、八四四

梨木 啓治

今江二四三

浦田 俊夫

コメ自由化問題

基本的認識を問う

元島正隆 議員(無所属)

金丸元副総理が砺波市で行った発言をかわ切りに、政府与党の実力者が相次いでコメ市場開放を容認する言動をし、農業団体は一斉に反発、政府、国会に対して自給方針を改めて強力に求めて行く

町政の課題について五議員登壇

一般質問

6月14日

している。

農業、農村は国民に対して、主食を安定的に供給してきたところであり、地域の経済や社会を守り地域における基幹産業として就労の場の提供、関連産業を興してきた。

コメ自由化になれば、農業は壊滅的な打撃を受けるばかりでなく、国全体の問題でもある。

町長はこの問題に対し、どのような基本的認識をお持ちか伺いたい。

優良品質米の生産基地 自由化には反対

町長

世界各国の果物、農産物が店頭にあふれる中で、コメが自由化されれば、日本の農家にとって決定的な打撃であると、私も厳しく受けとめている。

昭和四十四年以来、転作による生産調整が行われ、転作率も二十五年以上になつてきている実態のなか

で、コメの自由化となれば、踏んだり蹴ったりでなからうか。

町の農業事情は、稲作主体であること、農業機械の導入率が高いこと、担い手不足、高齢化、米価の引き下げなど、情勢は非常に厳しい。

コシヒカリなど優良品質米の生産基地として、コメの自由化について基本的に反対する。

富山県町村会の副会長の立場からも十分に働きかけたい。

町独自の農業U・くづくり 地域U・くづくり検討を

問

コメの国内自給政策を堅持し、市場開放を行わないことは当然と考えるが、万が一自由化になった場合も対応できる体制づくりをスタートさせるべきと考える。

私の提案であるが、農家が消費地と契約して生産するコメづくりはどうか。今から都会の人達を固定客としてつかんでいこうという

農民の動きもある。

消費者に対して、欲しいときに必要に応じた供給のできるカントリの導入など、生産者に対して行政と農協が支援して行くやり方もあると考えるがどうか。

町もいろんな角度から農政を見直し、町独自の農業づくり、地域づくりを模索するときにないか、発想の転換を期待する。

コメ消費拡大運動推進

町長

ブレンドしなくて生産地から消費地へ送る流通過程の問題、あるいはコメをそのまま保存するカントリの建設といった提案は非常に大切だと思つている。

町の農業団体と十分連携を取りながら、適当な時期に建設を図りたい。

消費地との結び付きを強化する趣旨で、昨年から実施しているコメ消費拡大運動の一環として、本



▲良質米産地の基礎 (優良種子保管施設・浦山新地内)



▲学校施設の開放（入善中学校）

体育施設の整備を望む

年も消費地の児童生徒を主として農家へのホームステイを実施する。農家の実態や、コメづくりの一端などを見てもらい、農業体験を通じて相互理解を深めたい。相応の成果も上がっているのに引き続き地道に続けて行くことが必要であると考える。

問

スポーツ振興の環境づくりや、人材づくりは総合体育館の建設のみで達成されるものではなく、各地区の各種体育施設の充実した運営、維持管理があってこそ成し遂げられる。

運動公園の陸上フィールド内や野球場は、少量の降雨でも自分の間

**施設の整備補修
計画的に実施**

教育長

ゲームができない状態であり、ナイター施設も照度が低下し、ボールが見えにくく危険である。また、運動公園南側の駐車場は照明が少なく、防犯上大変危険との声が聞かれる。一方、学校開放の体育館では、利用申し込みが多くサークル活動を組めない状態になっている。利用者が増えたから学校開放ではなく、町民が自由にスポーツに親しめるよう多くの施設開放を望むものである。

年々町民のスポーツに対する関心、意欲が高まっており、ご指摘

のとおり手狭になっているのが現実であり、現在ある施設の効果的な利用と充実について検討している。

運動公園の野球場整備については、十分理解しているが、総合体育館の建設が急務であり、計画的に補修を行いたい。

また、野球場の夜間照明については、ランプの安定器の不良品、あるいは交換について調査しており、照度の測定をおこない改善を図りたい。

西中学校のグラウンドについても暗渠排水が十分ではないので、今後早急に整備して参りたい。

学校施設の開放については、西中学校を初めとして入善中学、黒東小学校、今年度から入善小学校を開放したところであり、上青小学校についてどうするか、学校開放の基準もあるが、今後前向きに検討してまいりたい。

**スポーツ指導者の
養成状況は**

問

先の議会において質問した、スポーツ少年団の指導者養成や助成など、また団体育成や小グループにおける一般指導員の育成など、その後の経過や、結果を問う。

**スポーツ指導者養成
促進させる**

スポーツ振興課長

現在、スポーツ少年団は二十団、五百名の子供達が登録しており、

指導者は昨年の五十一名から今年度は六十二名に増えている。

有資格者の拡大を図る一方、スポーツ少年団指導者講習会の開催、バレーボール少年団の合同合宿も予定されている。

社会体育の指導には、現在三十六名の体育指導員がおり、資質の向上を図るため各種の指導者講習会に参加をいただいております、その養成も行っている。



▲改良が待たれる運動公園（野球場）

また、スポーツリーダーバンクの登録者は七十九名、その効果的な活用は勿論であるが、活動しやすい場の提供にも務めている。

日本協会のスポーツ指導者は二十三名で、指導者協議会が設置されており、今後はより一層発展させ指導者間の連絡調整、講習会などに力を注ぐ一方、ジュニア層の技術指導にも協力を賜りたいと考えている。

防災行政無線整備拡充 情報伝達に不可欠

松沢孝衛 議員（自民）

問 「災害は忘れたころにやってくる」と言われている。昭和四十四年八月の集中豪雨のときに入善町に避難警報が出されたが、非常時の情報伝達手段である防災行政無線は風向き、天候等により全然聞こえない所もある。現在設置されている屋外放送施設は町内に十五カ所であり少ないと思うが、増設の考えはないか。

戸別受信方式が理想 町民にも応分の負担

町長

防災行政無線は、昭和六十一年二月に消防庁の補助を受け八千円余りで設置をしたが、現在においては十分だとは思っていない。町内に屋外放送施設は十五カ所あるが、近くの住民の中には非常にやかましい、テレビの画面が乱れるという苦情もあり、拡声器を増やすことだけで事足りると思えない。

放送が聞こえないという問題を解決するには幾つかの方法があるが、一番理想的なのは戸別受信方式だと思っている。現在、栢山地区で導入され運用しているが、今後全地区に導入し地区ごとの放送に対応するには、現在設置してある無線設備の改造に二千万円余りの費用が必要になってくる。また、各戸に受信器を取り付けていただくために、町民の皆さんにも応分の負担が必要になる。投資効果と将来の防災行政無線のあり方など、もう少し詳しく検討すべきでないかと考えている。

地下水から有機溶剤 心配な人体への影響

町長

黒部川扇状地湧水群は、全国名水百選の中に選ばれているが、昨年度が実施された地下水質調査で町の一部地区から有機溶剤トリクロロエチレンが検出された。

分析結果では○・○一から○・○四ppmで、検出された地区に内容書、調査控を郵送されているが、飲用すると妊娠中の方は胎児に影響があると聞いている。地下水は生活用飲料水として利用して

おり、この問題を今後どのようにするのか。

適正基準の130から17 心配はないと確信

町長

本町の一部の地区で検出されたトリクロロエチレンの濃度は、幸いにも国の飲料水の適正基準の十分の一から七分の一という低い濃度であり、そのまま飲んでも安全だと言われている。

胎児にどのような影響があるかということについては、専門家の意見を十分聞いていきたい。權威ある国の基準に比べても非常に微量であり、直ちに健康に影響する心配はないと確信しているが、果とも十分連絡を取りながら、



▲防災行政無線施設（役場無線室）

「トリクロロエチレン」とは

有機塩素系溶剤
有機溶剤による健康被害は、体内に蓄積して、肝臓・腎臓障害や中枢神経障害を起すほか、がんを引き起こす疑いもあるため、使用には細心の注意が必要である。
環境庁の調べによれば、全国の地下水に、これら

の化合物の汚染が広がっている。

トリクロロエチレン

の評価基準

トリクロロエチレンの評価基準値は、中央公害対策審議会の答申に基づき○・○三mg/lに設定されており、これはWHOの飲料水暫定ガイドライン値でもあり、また我が国の水道水の暫定的な水質基準値でもある。

町内企業の検査指導 排水合併浄化槽は

町長

町内企業からの排出に対し、検査、指導をどのようにされるのか。また、町が誘致した企業に対し

公害は厳しく指導 合併処理浄化槽に補助

町長

公害問題については、町内企業に厳しく指導していきたいと思っ

ている。また、トリクロロエチレンの取り扱い事業所に対しては、取り扱いは十分慎重を期し、地下浸透がないような形で回収するよう指導している。

企業などで本年四月以降被害の少ないような代替薬品に切り替えている所もあることは把握している。いずれにしても公害問題については精一杯努力をしたい。

合併処理浄化槽の設置補助制度は平成元年度から実施しているが、トリクロロエチレンの取り扱いと合併処理浄化槽の因果関係については、極めて希薄だと思っている。油などの問題で企業が沈澱槽等を造るようなことがあれば、町としても応分の補助をして、この促進を図っていきいたいと思っ

環日本海時代の幕あけ 新幹線の早期着工を

本多幸男議員 (清新ク)

問 北陸新幹線の早期着工は、北信越県民の願望であり、若者に夢を、企業に活力を、高齢者に潤いを、と高速交通網整備事業はハード、ソフト両面を兼ね備えた重要な国家プロジェクトである。

経済活動のエリア拡大、過疎化現象の進む裏日本と表日本との格差是正上からも二十一世紀に向け、環日本海の幕あけにふさわしい交通網として、北陸新幹線はぜひとも必要であり、新幹線建設は国の責任において行い、地元負担は課すべきでないと考えます。
また、在来線は公共性の確保という立場で存続する事を基本に運動を展開すべきと考えますが、町長の基本方針を伺いたい。

「北陸にひかりを」 先行暗い新幹線計画

町長

新幹線の必要については「北陸にひかりを」のキャッチフレーズで、交通体系の問題、国土の均衡ある発展、地域間格差の是正を図るため、二十数年前から運動が展開されてきた。二十一世紀を間近にして、我々が期待していた「ひかり」の内容が異なってきた。
一時期の東京一極集中現象が政治、経済、文化に弊害やひずみをもたらした。今や集中と分散問題は永遠のテーマとなりつつある。

たびたびの計画及びルート変更、県からの報告等で察する限り、新幹線の行く手は暗く不透明である。また、糸魚川、魚津間は一千五百億円の工事で十一分の短縮であり、必要性に矛盾も感ずるが、県全体のため、東海道新幹線の代替的要素が強い等、大局的な立場に立ち北陸新幹線建設を推進すべきと考えます。

JR在来線存続 署名と今後の対応は

問

昨年来急浮上した在来線廃止に對し、いち早い議会の反対決議、特別委員会の設置、在来線存続対策町民会議の結成、存続要望署名等議会と当局、各種団体の結束は高く評価すべきである。
署名の回収率と人数は、現在どのようになっているか。

JR存続を熱望 全町民の82%

町長

短期間であったが、二万四千四百八十人の署名があり、全町民の八十二割を占めている。関心の高さ、存続に対する熱意の表われと真摯に受けとめている。
今月中に署名簿を運輸省、JR西日本、県知事等関係機関へ提出し、町民の意向を反映させるべく存続に向け強く動きかけていきたい。

新幹線建設に伴う 赤字在来線切り捨て

問

元来、国家的事業であるべき整備新幹線事業が新幹線を取るか、在来線を取るか踏絵のごとくとられている現状は、全く遺憾である。国民の足であり極めて公共性の高いJR赤字路線を切り捨てるといふ運輸省やJRの考え方に對し、今後、県民の足を守る運動をどのように盛り上げていくのか、町長の見解を問う。

二者択一には 在来線存続を強調

町長

在来線は一番立場の弱い通学、通勤、高齢者の足であり、貨物輸送等も含め非常に重要である。公



▲ JR在来線の存続を県知事に陳情

共交通機関としての価値はむしろこれから高まると考えます。
新幹線を作れば在来線は不必要という二つを同列に考えること自体まちがいであり、県の第四回整備問題検討会の中でも二者択一を迫られた場合入善町は在来線を守ることを強く表明してきた。

町民の利益を守る、足を守る基本的な考えと、大局的な立場をも十分考慮し、運動を展開すべきと思っている。
今後、朝日、黒部、宇奈月、清川と連絡、協調しながら本多議員提案の新幹線フォーラム等前向きに検討していきたい。

JR在来線存続を 新幹線は国の責任で

九里 郁子 議員（共産）

問

運輸省、JR西日本は北陸新幹線建設に当たり北陸本線の廃止、経営分離を求めているが、新幹線が在来線かの二者択一を迫られた場合、生活路線である在来線を守る立場は変っていないか。

JR西日本の三ヶ月決算をみると二百九十八億円の利益が計上され、北陸線の赤字区間は経営努力で賄え、赤字を口実にした切り捨ては許されない。在来線存続の町民署名二万四千人の声を運輸大臣に会い届ける考えはあるか。

北陸新幹線は国の責任で建設すべき国家的プロジェクトであるが、県は地元負担をするから建設してほしいと言っている。町長は賛成か反対か。

**在来線を守る考えは不変
運輸大臣に意向を具申**

町長

二者択一を迫られた場合には、在来線を守るといふ立場は今も変わっていない。

新幹線は国土の均衡ある発展と

いうことからすれば、建設について地方自治体に財政的負担を求めないというのが原則であり、基本的には地元負担は取るべきでない

と考える。

在来線存続については若手県一戸町の「ふるさと線を守るシンポジウム」に職員一人を派遣し連帯の行動も取っている。署名については機会をみて運輸大臣に会えば、町民の代表として意向を伝え届けたい。

**町営住宅・火葬場の
消費税分引下げを**

問

消費税の廃止、公共料金への上乘せをやめ、食料品など生活必需品を非課税にというのが多くの国民の悲願である。

今回、出産費や家賃など公共料金が非課税になったが、町営住宅の消費税上乗せ分を引き下げの考えはどうか。また、広域圏事業の火葬料引き下げを働きかける意思はあるか。

**10月1日から引下げ
町営住宅使用料**

町長

町には二百三十四戸の町営住宅があり、住宅使用料の消費税分は月額百円から七百円で、年額約九十五万円になる。消費税上乗せ分は十月一日から引き下げたいと思

っている。

**高い国保税引下げに
繰入・繰越金充当を**

問

入善町の一世帯当たりの国保税は、昭和五十八年度に比べ三十割、四万円近く大幅に引き上げられた。

**一時的引下げ可能
根本的な解決でない**

町長

国保税は繰越金等で一世帯一万円の引き下げはできると思うが、次の年からまた引き上げするということになると、真の引き下げに

国保は最も条件の悪い医療保険、最も高い保険税と言われている。国保問題は健康で安心して暮らせる地域づくりという全町民の課題でもあると考えるが、一般会計からの繰入金を増やす考えはないか。また、繰越金剰金は一億三千万円あるが、これを計上し応益割を引き下げ、住民の要望に応える考えと、現行の助産費補助十三万円を二十万円以上に引き上げる改正についてはどうか。



▲町営住宅10月から値下げ（消費税分700円・駅南団地）

ならない。高いか安いかわからない問題については、いろいろあると思

国保加入者の負担を軽くしたいということ、少ない経費で大きな効果を上げるべき努力はしている。

医療費増強に対する問題については、不必要な医療行為をしない呼びかけ等、趣旨を理解していただき協力がなくとも根本的解決にはならない。国保運営については加入者の実態等も見極めながら、総合的な判断のもとに行っている。助産費補助については、引き上げも検討していきたい。

**汚染源未解決は問題
地下水対策を問う**

問

昨年、県が実施した地下水水质調査で入善町の一部から有機溶剤トリクロロエチレンが検出され、県は周辺地区の工場、事業所の立入り調査を行い使用状況、排水水质管理状況、施設の改善等について指導を行った。

汚染源が未解決のまま、今なお汚染されていることは重大問題であり、対策が急がれる。この資料を関係住民に公表するのが行政の責任と考える。検出周辺地区の水质検査は年間を通して必要と思うが町の対策はどうか。

また、科学的な実態調査とともに工場排水の施設整備など企業に義務付けの必要と、汚水処理施設改善の補助についてどう考えらるか。

地下水は町民の財産 汚染は非常に残念

町長

地下水は町民の財産であり、汚染されないよう十分留意していたが、この度の結果は非常に残念に思っている。

今の段階は、原因と考えられる企業名を発表するに至っていないがトリクロロエチレンを使っていた企業等は、ある程度明らかになっている。廃液の処理、使用等については十分留意するよう県や町を通じて企業とも十分話めである。

白内障眼内レンズ 町単独補助の考えは

問

白内障眼内レンズは保険適用がなく自己負担のため、高齢者の多

地下水のメカニズムは非常に複雑で良くわからないが、町としては住民の不安を少しでもなくするために二カ月とか三カ月に一回ぐらい調査、検査をするなどして、地下水の状況を見極めるしか方法がないのではないかと。公害防止のための補助金については、十分前向きで検討したい。

▶白内障患者が多い老人(宝田医院)



機会を通じ 保険適用に努力

町長

眼内レンズについては保険適用になるよう、いろんな機会を通じて努力していきたい。

町が直ちに補助金を出すかどうかというについては、全国各地の県、市町村の実態を見極めてから判断したい。

い患者の中には手術をためらう人も少なくない。国に対し保険適用するよう働きかけてほしい。また、保険適用されるまで、町単独で補助する考えはあるか。

コメ輸入自由化緊迫 反対の意志と姿勢を

問

コメ輸入自由化をめぐる動きが緊迫化しているが、コメを守ることは日本国民の願いである。

コメ輸入自由化反対の意志と姿勢を示すことが大事と思うが、具体的な方法は。

国会議員等に要請

町長

水稲主体の入善町農業を守るため、コメ輸入は反対である。

具体的な行動としては町村会を通じて、あるいは国会議員などにも要請をするという運動をこれからも続けていきたい。

農家手取り年々減少 育成・発展が急務

西尾政巳議員(無所属)

農業機械リース事業 2億円の基金積立を

問

入善町農業銀行の目的は、低コスト農業を目指し農業機械リースや作業受委託促進事業となっている。

農業が国際競争力をつけるには農業機械リース事業を特に発展させることが急務と思うがどうか。また、トラクター、コンバイン、田植機など移動可能な機械類のリース制度の拡充に町、農協が一億ないし二億円の基金を積み立てし、農家の過大投資を防ぎ競争力ある農業を発展させることについて、どのように考えるか。

時宜にかなった制度 リース前向きで検討

町長

農機具の投資は農業生産コストの中に大きな部分を占めている。リース制度を確立するために農協や行政が基金を積み立てること

実効ある農業方策 宿題として検討

町長

農業問題については、米や大豆、麦などの価格が国際的な情勢、国内的な食糧の過剰という背景から年々下がっており、農家の生産意欲のマイナス要因になっている。

町の段階で効きめのある方策はないが、町民の素朴な意見に十分耳を傾け、農業団体との絡みもあり宿題として検討していきたい。

入善町農協婦人活動実績発表大会・研修会



は非常に大きな問題であるが、農機具のリース制度は時宜にかなった提案だと評価しており、前向きでいろいろ検討させていただきたい。

農政課長

農業銀行には農機具の有効利用を考え、転作物用のリース機械があるが、組合員の利用が多い。農業機械リース事業制度の拡充は、農家の過剰投資防止の一つの有効な方法だと考えている。

低コスト農業の実現に向け、いろんな施策を講じたいと思っています。

集落営農による 低コスト化へ

問

全集落にわたる集落営農の推進は低コスト農業実現、外圧に打ち勝てる農家の出現を目指すものであるが、穀物自給率を高める政策も積極的に押し進めなければなら

るが、基金を利用する制度拡充については財政面、運用面からも研究していきたい。

議員提出議案第3号

米市場開放阻止ならびに平成3年産米の政府買入価格、米穀政策の確立に関する意見書

本県の稲作農家は、消費者の要望に応え、良質米の安定生産・供給に取り組むとともに、需給均衡を図るために転作物標面積の達成、そしてコスト低減などに懸命の努力を重ねてきているところであります。

しかし、米市場開放圧力の強まりやカット農業交渉の行方、自主流通米をめぐる状況変化等、稲作農業と経営の先行き、農村の将来方向に不安を感じています。

稲作農家の将来展望を確立し、本県の稲作農家が安心して農業に取り組める米穀政策の確立を図るため、下記の事項が実現されるよう要望します。

記

1. 米の国内自給政策を堅持し、市場開放は断じて行わないこと。
2. 平成3年産米の政府買入れ価格は、現行を維持すること。
また、I・II類および1等への加算を前提とした類間・等級間格差の見直しを行うこと。
3. 食管制度の基本を堅持するとともに、運営健全化のための政府助成を含む政策措置を実施すること。
とくに、売買順ザヤの縮減、政府米と自主流通米の均衡ある集荷を促進するための財政的・政策的支援の実現を図ること。
4. 農業および農村生活の基盤整備を拡充するとともに、地域農業の担い手の育成・確保対策を強化すること。
5. 米飯学校給食への地元産良質米の供給に対する助成措置を充実、強化すること。
6. 水田農業の地域経済社会や国土保全等に果たしている役割を正当に評価し、国の基盤としての位置付けを明確にするとともに、農家が展望をもって営農にいそしめる食糧・農業基本政策を確立すること。

以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出する。

平成3年6月21日

入善町議会

集団営農体制に

町長

低コスト農業を進めるためには個別完結型の農業形態では問題があり、集団営農体制に切り換え集団で農機具を使う、リースでこれに当たるといことが考えられる。

非常に大きな問題であり、関係機関と連絡を密にしながら検討していかなければならないと考えている。

議員提出議案第2号

入善町議会委員会条例の一部改正について

地方自治法の一部を改正する法律が平成3年4月2日公布され、議会運営委員会及び参考人制度が法定化されたことに伴い、全国議会議長会では平成3年5月15日標準委員会条例の一部改正を行った。

入善町議会委員会条例も、この改正にあわせて一部改正を行うものである。

平成3年6月11日

入善町議会

老人福祉総合エリア視察

老人の福祉、医療
生活、社会参加を網羅

文教厚生常任委員会

副委員長 西尾政巳

年をとっても、長年住みなれた地域社会の中で生きがいのある生活をしたいというのは、誰もが望むことである。そのためには、行政の力による町づくりが大切になってくる。今回は、全国に先がけて作られ注目を浴びている、秋田

県の「南部シルバーエリア」を視察した。

高齢化社会が必然的に到来する現状において、老人福祉をいかに向上させるか議会としても大いに関心のあるところであり、議長以下議員全員が参加し、熱心に研修

をしてきた。

二十一世紀には、全国一の高齢化した県になると予想されている秋田県には、老人福祉総合エリア構想が三カ所ある。

一つは、北秋田郡合川町大野台の里の地域主導の障害福祉型であり、二つ目は能代市の地域主導の医療保健型であり、三つ目が今回視察した専ら主導の総合整備を図る福祉標準型の老人福祉総合エリアである。

丘陵地を切り開き

53億5千万円を投資

奥羽山脈や横手盆地を一望できる、僅か人口八千人の大森町の高い丘陵地を開き、過疎対策の一環として、また、雇用対策として、秋田県が「活力とうるおいに満ちた長寿社会秋田」を目標に、静寂で絶景の地に総事業費五十三億五千万円を投資し、敷地面積十四・九畝、建築面積一万七千八百一十一平方メートル、延床面積一万九千六百三十一平方メートルの老人福祉施設、医療

施設、生きがい施設等を網羅した総合的なものである。

秋田県社会福祉事業団が管理運営し、平屋建から三階建てまでの十六棟の施設がある豊かな自然に囲まれた、ふれあいタウンであった。

また、スポーツ施設として、体育館や屋内温水プール、屋外にはグレートホール場やテニスコートがある。さらに、コミュニティセンターの中には、大浴場やレストラン、理容・美容室、売店、休憩娯楽室のほか、映画室、研修室、図書コーナーが備わっている。

生きがい施設としては、創作館（陶芸、民芸、木工、食品加工）や、子供と老人のふれあいセンターがある。また、診療、リハビリセンターには、医師が常時三名いて、内科、歯科、リハビリ、健康相談に当たっている。さらに、隣接市町村にまでバスを運行し、シルバーケアセンターとしての性格を明確にした施設であった。

居住施設は全て個室

マンションも建設中

入居施設としては、特別養護老人ホーム（定員百名）、養護老人ホーム（定員五十名）、軽費老人ホーム（定員五十名）と、本年十月のオープンを目指し、老人専用マンション（定員二十四名）が建設中である。このマンションは、単身用七室、夫婦用七室があり、

介護を必要としない条件で終身利用でき、一時金は単身で一千二百万円、夫婦の場合は一千八百万円である。このほかに、月額十万円から十五万円の費用が必要である。入居老人のプライバシー保護から勝手に面会できないが、ボランティア活動や子供の慰問等はストリートに面会できるということであった。入居者の健康増進用の器具もあくさんあるが、それよりも生きがいのための工作や料理づくり、農園づくりの方が、老人には適しているということであった。

暖房費4億円に驚き

積雪地帯であることや、建物が十六棟と温水プールがあるため、年間の燃料費に四億円を要することには驚いた。後の維持管理費を考えると、建物の建て方に工夫を凝らしてもよかつたのではないかと思つた。

この施設の視察を通して、この「南部シルバーエリア」を利用できる老人の方々は幸せだ、との思いを強くした。

本町行政に反映へ

特に印象に残つたのは、一般の人々も利用でき、老人とのふれあいをより多くもつことができる施設にと工夫しており、秋田県の施設づくりに対し、ただただ敬服の念を禁じ得ない。

今後の入善町の老人福祉行政に参考とすることの多い、成果ある研修であった。



▲生きがい施設・創作館



西側初の直行便で ソ連極東訪問団に参加

広瀬 義孝 議員

五月十四日から十八日まで、富山県ソ連極東訪問団の一員としてウラジオストク、ナホトカを訪問することになった。

出発に先立ち、富山空港での結団壮行会で森本団長（富山ウラジオストク会会長）は、「ソ連は近くて遠い国と言われるが、今回の訪問を機に、近くて親しい国になれるよう努めたい」とのあいさつがあり、チャーター便のソビエト航空「ツボレフ一五四」に乗り込んだ。

ウラジオストク市は、ソ連の軍事拠点で対外開放されておらず、西側からの直行便は初めてである。一行百五十七人は、午後一時半に全員元気でウラジオストクに着いた。

ウラジオストク空港は軍と共用で、戦闘機やヘリコプターなど数十機が翼を休めており、戦闘機が駐機している空港で歓迎セレモニーがあり、ソ連式の塩とパンによる歓待を受け、民族舞踊の披露に感服した。

市街へ出ると、広いレーニン通りの近くに革命広場があり、沿海州庁舎が、どっしりとした姿で建っていた。市街地では多くの市民が買い物を楽しむなど、緊張感はなかった。

日本語教室を参観

絵本・教材に歓声

二日目は、ウラジオストク第五十一番小学校を訪問した。学校へは、入

善小学校から託されたバトミントン用具一式と絵本、教材などを届けると、歓声を揚げ喜んでくれた。当校は全校生徒一千名くらいで、日本語を学んでいる生徒は百五十名程おり、日本語教室の授業を参観したが、「自動車、自転車」等の日本語を勉強していた。

教師も日本語で話すが、とてもはつきりしている。先生は女性が多いようであり、校長先生も女性で、とてもソフトな感じがした。午後は「ピオニールキャンプ・サナトリウム保養所」を見学したが、このキャンプ地は夏季のみ使用しており、職員数七百人で、十二歳から十八歳までの生徒千二百人を収容できる施設である。

ナホトカ日本人墓地へ

三日目は、ウラジオストク港から船に乗りナホトカへ向う。ウラジオ市にはソ連極東海軍の基地があり、多数の軍艦が停泊していた。ナホトカは、小樽、舞鶴、敦賀市と姉妹都市提携をしている。午後、ナホトカにある日本人墓地を訪れ、戦出身者の五墓標に手を合わせてきたが、異国でのご苦労に感謝の念でいっぱいである。

この後、木材積出港である「ポストチエイ港、ベストニス・ハストニカ港」を船上より見学したが、港湾の雄大さに驚く。ナホトカの木材積出港は一九七二年から七四年にかけ、日・ソの技術、合弁事業で三年間の年月と相当額の費用をかけた完成した。

各国企業との合弁推進

四日目はベリヨスカ郷土博物館を見学。午後は市内の劇場で今回同行した富山市の花柳舞踊団とロシア・アンサンブルの交歓会が盛大に行われた。帰りには日本語を学んでいる小学生と日本の「しあわせなら手をたたこう」の歌を合唱して別れを惜しんだ。

夜には、ウラジオストクの有力者を招待して開かれた訪問団の夕食パーティーで歓談は夜遅くまで続いた。

ウラジオストク市などの沿岸地方は、経済の発展に力を入れ、世界各国企業との合弁を推進しており、同知事らは、「富山の企業もどんどん来てほしい」と強調され



▲ウラジオストク第51番小学校

大きな成果土産に帰国

今回が訪問団のチャーター機が、初めて日本からウラジオストクへ直接乗り入れたほか、県と沿海地方との友好締結を合意、富山ウラジオストク間の定期航空路開設に向けた協定書に調印するなど、大きな成果を挙げた。

到着前の機内の解団式で、森本会長は「県と沿海地方が一年以内に友好提携することや、スポーツ、文化、経済交流を進めることなどで調印でき、訪問は大変有意義だった。日本海を平和と発展の海にしたい」と述べられた。訪問団の一員として無事つとめを果たした思いである。

常任委員会審査報告

転作管理に

電算システム導入

総務常任委員会

委員長 広瀬 喜代志

当委員会に審査、付託された議案三件、請願一件、陳情一件については全員一致で可決、採択すべきものと決した。

一般会計補正予算議入の国・県補助金は事業内示等によるものであり、繰入金二千九十五万九千円は水田農業確立対策基金繰入金で、転作管理電算システム導入のため農協支所、役場などにパソコンを十二台配置し転作管理事務をするが今後の事務効率化に期待する。老人保険医療会計繰入金金は医療費確定による精算返納金であり、特に意見はない。

町民の足を守り

町の活性化を

歳出について、一般財源で補う企画費百二十万円については、先に運輸省、JR西日本が新幹線建設の条件として、JR在来線をJRから経営分離の方向を打ち出した。

JR在来線存続対策町民会議を



▲水田農業確立対策事業にパソコンを導入

組織し、また関係沿線市町村とも緻密な連絡をとり、JR在来線存

続を守るため効果的な運動を強く進められるよう要望する。

最低見積りに若干問題

冬期間、西中学校生徒のスクールバスなどに活躍している大型バスの購入に当たって、三社見積を取り最低価格で仮契約を結んでいるが、安全性や運行計画などを考慮し、費用が重んでも町民にとって一番よい車を検討し取得するよう提言する。

また、国民健康保険税条例の一部改正については、加入者の負担も考慮しながら万全を期されるよ

う特に要望する。

人命、財産を守るため

確かな情報を

今回、請願、陳情として出された、上原地区の防災無線施設導入

について、現在、町の施設での対応は可能だが、将来を考えると若干問題がある。今後、鋭意研究検討し、十分協議を重ねて一層町民との深まりをもつ防災行政無線となるよう要望する。

生きがい対策を検討

超高齢化社会到来

文教厚生常任委員会

委員長 五十里 隆 章

今回の一般会計補正予算の当委員会付託部分は、八千二百三十三万一千円で、全体の四十七・二割を占めている。

この中で、シルバー人材センターに幾つかの業務が委託されているが、老人の生きがい対策という意味からも良い発想であり、今後可能なるものを是非検討していただきたい。

また、老人福祉対策費には、世代間交流促進事業や生きがいと健康づくりモデル推進事業があるが、厚生省人口問題研究所が昨年十二月現在でまとめた国の将来人口の暫定推計によると、六年後の平成八年には十五歳未満の人口と六十五歳以上の人口比率が逆転し、二千二十五年には四人に一人が老人で占められる「超高齢化社会が到来する」との内容を明らかにして

いる。

ボランティアの

組織づくりも課題

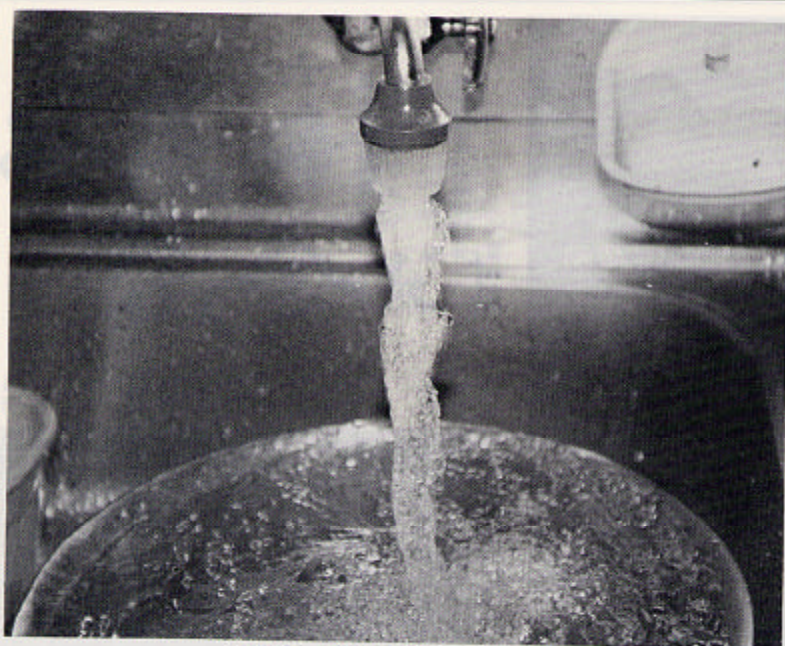
在宅福祉を補償するのは行政であるが、ボランティア組織づくりも非常に重要な課題であり、鋭意努力されるよう要望したい。

名水に厳重な対応を

水質汚濁防止法に基づき、県が実施した地下水の水質調査の結果、目川地区から有機溶剤トリクロロエチレンが検出された。

この問題について、担当課はそれなりの対応をしているが、町はあまり厳しい受けとめ方をしていないのではないか。

住民の立場に立って、町の名水を守り子孫に伝えていくという強



▲安心して飲める地下水を守れ

い姿勢でのぞんでほしいものである。
町内の事業所がどんな薬品を使い、どのように管理、処理しているかを把握するとともに、排水処理施設や関係設備の増設には補助金を出すなど、きめ細かい運用に留意され、公害防止に厳重な対応を要望する。

**全体計画で検討を
入小用地取得に疑問**

入善小学校の用地購入は、スキ

ー山を造成することにより潰れる駐車場の代替地取得であるが、市街地ということで制約もあったことは理解するものの、全体計画の中で必要な施設の配置は十分検討されるべきであり、今このような問題が出されることに疑問を抱くものである。

今後とも学校統合や建設が進められると考えるが、学校のみならず公共用地取得にあつては、十分な計画とより多くの意見の聴取に心懸けていただきたい。

町農業の各種施策 将来展望確立へ

産業建設常任委員会

委員長 本 多 幸 男

今回の補正額、一億七千四百二十九万五千円のうち五十一・八割、九千二百五十八千円が当委員会に關するものである。

農業問題については、本町農業の基幹である米をめくり、市場開放圧力の強まりやカット農業交渉の決着の行方、自主流通米をめぐる状況変化等生産農家をとりまく情勢が厳しさを増す中で国の各種施策にも取り組まれている。

本町の農業、農村の位置付けを明確にするるとともに、適地適産に基づく稲作農業の将来展望確立のための施策について、十分検討されるよう要望する。

また、米消費拡大を目的に消費者農家ホームステイ事業にも取り組まれるが、米流通の観点も含め進めるとともに、意見交換の拠点



▲転作大豆の培土作業（田中地内）

づくりも必要である。

転作管理、計画に パソコン12台導入

転作については、昭和四十四年以來今日まで一時期率は下がったものの、現在は二三・四割と年々拡大されている。この中にある転作管理電算システム導入は、十二台のパソコンを農協支所、役場に配置するものであるが、転作計画の策定等、効果は期待するものの、その効果を懸念する声もあり、しっかりした対策を講ずるよう強く望みたい。

大豆培土機導入は、肥培管理の

省力化、低コスト化を進める上で時宜を得たものであるが、導入機械の効率的な運用、管理体制の整備も併せて図りたい。

舟見山自然公園に 仮称「舟見城」が寄贈

舟見山自然公園整備事業にあわせ静岡県の宮崎隆造氏から、仮称「舟見城」と古文書の現物寄付に対応し、古文書の陳列ケース購入や管理のための防犯カメラが設置されるものである。

利用方法、維持管理等、十分に配意検討されるようお願いする。



▲北電北又ダム制御室

議会

日誌

六月 (みなづき)

- 6日 舟見山展望展示館起工式
- 11日 議員全員協議会
- 12日 第十四回議会定例会(正副議長選挙、提案理由説明)
- 14日 議会定例会(一般質問、質疑、委員会付託)
- 17日 総務常任委員会
- 18日 産業建設常任委員会
- 19日 文教厚生常任委員会
- 21日 議会定例会(各常任委員長審査報告、質疑、討論、採決)
- 25日 先進地行政視察(秋田県南 郡老人福祉総合エリア)
- 27日 富山県南米協会総会
- 29日
- 3日 議会運営委員会 (東京)
- 3日 全国議長会 (東京)
- 5日
- 6日 町村民議会臨時総会 (富山市)

七月 (ふみづき)

- 3日 黒部川直轄砂防事業三十周年記念 (宇奈月町)
- 4日 愛知御津町行政視察来町
- 6日 日中友好地方議員連盟総会 (富山市)
- 9日 花マンダラ塔竣工式 (富山市)
- 11日 地方議会シンポジウム (富山市)
- 15日 J R在米線存続陳情 (富山市)
- 16日 福岡県高田町議会行政視察来町 (運輸省・J R西日本)
- 16日 北陸新幹線建設促進同盟会 (東京)
- 3日 入善町戦没者追悼法要
- 5日 非核宣言自治体全国大会及び広島市平和祈念式 (広島市)
- 6日 入善町平和祈念式 (広島市)
- 19日 議員全員協議会
- 19日 正副常任委員長研修会 (富山市)
- 22日 議会だより編集委員会
- 19日 朝日・滑川間国道バイパス建設促進期成同盟会総会
- 23日 県政重要要望事項陳情
- 26日 新川広域圏事務組合議会
- 29日 新川広域圏事務組合議会県外視察 (和歌山県)
- 31日 北陸電力北又ダム視察

八月 (はづき)



▲花マンダラ塔が完成 (役場正面)

編集後記

★富山地方気象台観測史上初の「立秋越え梅雨明け」で農作物への影響が心配されます。
★大変遅くなりましたが、ここに六月定例会の内容をお知らせします。
六月定例会は初日に議長、副議長の互選を行い池原議長、広瀬(兼)副議長を選び、新体制でスタートしました。
★六月十四日の一般質問に五議員が登壇し、いま一番関心のあるJRの在米線存続問題、農業問題、水質調査結果の問題について真剣な論議が交わされました。
特にJR在米線存続については町の死活問題であり、町は町民会議とともに、運輸省、JR西日本、県知事に町民二万四千四百八十名の署名を提出し、陳情など活発な運動を展開している。
議会としても、全面的にバックアップしていきたい。
議会だより編集委員
石川 昭男 野坂 俊一
西尾 政巳 広瀬喜代志
本多 幸男 五十里隆章
白又 正司 (オアサーバー) 池原金興志